

# 端午の節句 ～いつの時代も子供は宝物～

青空に大きな鯉のぼりが泳ぎだしました。

とは言うものの、少子化や住宅事情で、鯉のぼりは小さくなったり、反対に高級化しているようです。

奈良時代の宮廷では、季節の変わり目である端午の日に、病気や災厄をさけるための行事がおこなわれ、薬草摘みをしたり、蘭を入れた湯を浴びたり、菖蒲を浸した酒を飲んだりしました。菖蒲の強い香気が邪気を祓うとされ「菖蒲の節句」とも呼ばれていました。

粽(ちまき)や柏餅を食べて祝いますが、粽は中国の慣習から始まったもので、柏餅は古くからの日本のお菓子です。柏の葉はしなやかで、食べ物を盛るのには向いていて、古くから食器として使われてきました。また、柏の葉は、新芽が出ないと古い葉が落ちないという特徴があるので、「子孫繁栄」の縁起物とされました。

粽や柏餅を食べながら、子供のころの気持ちに戻ってみてはいかがでしょうか。

いつかまた、にぎやかに鯉が大空を舞う日を願って…。



 **ウオクニ株式会社**  
<http://uokuni.co.jp>

※当社における食品の安全・安心および健康に関する取り組みについてはホームページをご覧ください。